

〔解 説〕

相関係数は $-1$ から $1$ の値を取り、2つの資産のリターンの相関係数が $1$ 未満のとき、それらからなるポートフォリオのリスクは、各資産のリスクの組入れ比率による加重平均を下回ります。相関係数が $1$ の時は、加重平均と同じになります。分散投資の効果は相関係数が $-1$ のときに最大であり、相関係数が大きくなるにつれ減少します。そして、相関係数が $1$ のとき分散投資の効果はゼロとなります。

1) 不適切。

相関係数が $-1$ の時、分散投資によるリスク低減効果は最大となります。相関係数が $1$ の時は、分散投資の効果はありません。

2) 適切。

相関係数が $1$ 未満であれば、リスクは2資産のリスクの加重平均よりも小さくなります。これが分散投資の効果です。

3) 不適切。

相関係数が $0$ とは、2資産のリターンが無関係な動き方をすることを示しますが、分散投資の効果はゼロにはなりません。

4) 不適切。

相関係数が $-1$ のとき、分散投資の効果は最大になりますが、設問のような考え方によるものではありません。

正解 2)